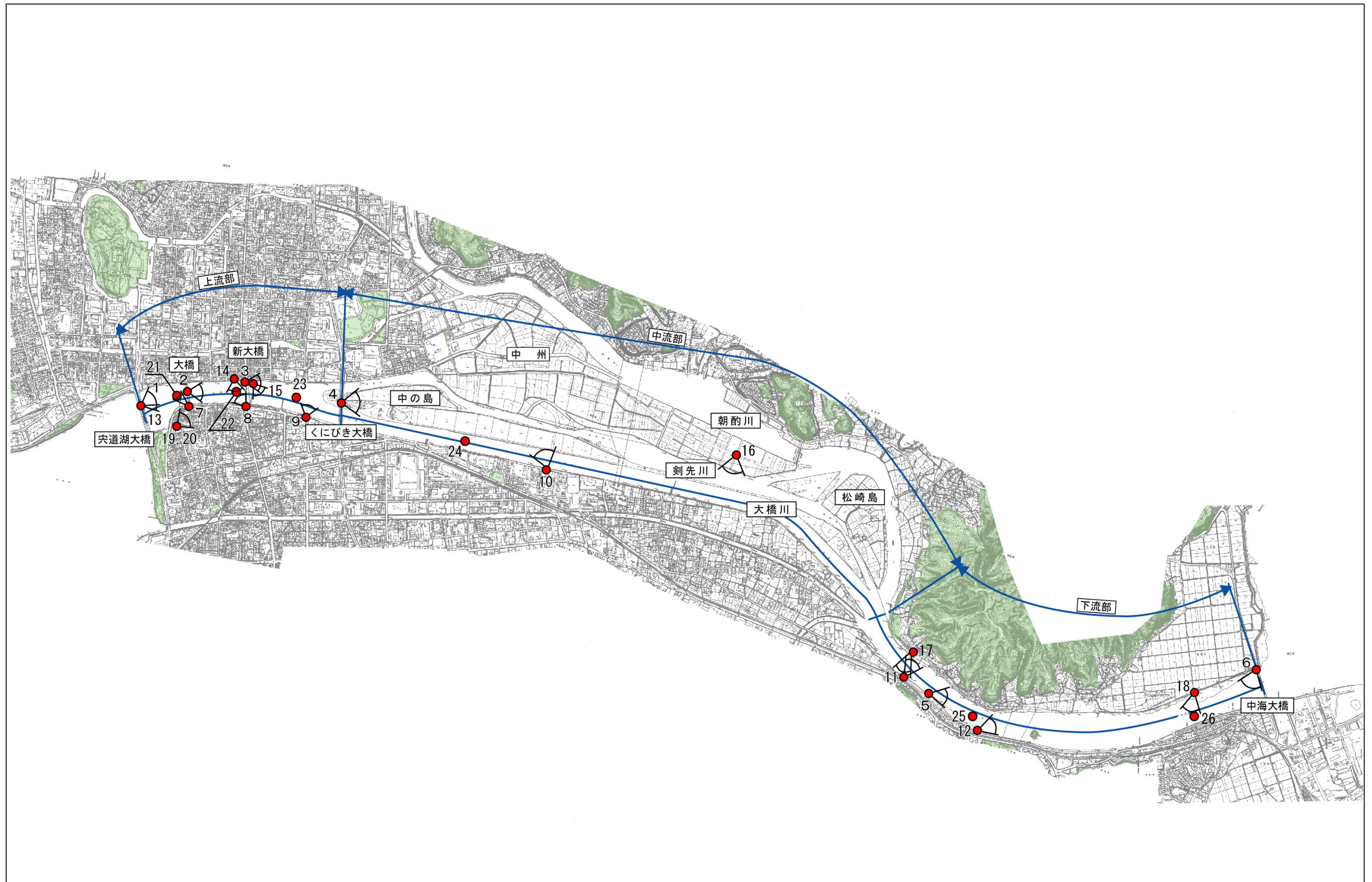


参 考 資 料

(景観特性に関する考察)

<視点場位置図>



流軸景の特徴的事項【上流部】

<1. 宍道湖大橋付近を視点場とした場合>

- ・大橋川の特徴である呑み口部から大橋にかけての緩やかな線形とともに大橋の歴史を感じさせる欄干も確認できる。
- ・右岸側には高層の山陰合同銀行本店ビルが位置する。
- ・左岸側は、老舗旅館や旅館の庭園等が位置する。
- ・左岸側背後には、嵩山、和久羅山からのびる稜線も確認できる。



宍道湖大橋より下流方向を望む

流軸景の特徴的事項【上流部】

<2. 大橋付近を視点場とした場合>

- ・川とその背後の建物の距離が非常に近い。
- ・護岸に関しては、見えの高さが小さく、水面への視線を遮る構造物も少ない。
- ・新大橋や中の島、左岸側背後の嵩山、和久羅山からのびる稜線も確認できる。



大橋より下流方向を望む



大橋北詰より下流方向左岸沿いを望む



大橋より下流方向右岸沿いを望む

流軸景の特徴的事項【上流部】

<3. 新大橋付近を視点場とした場合>

- ・新大橋付近は昔ながらの住宅などが存在し、水際にはシジミの選別などが行われている。
- ・くにびき大橋付近では、マンションや高層・低層の商業ビルが目立つ。
- ・くにびき大橋付近から始まる中の島の緑は、自然の豊かさを感じさせる。
- ・左岸側背後には、嵩山、和久羅山からのびる稜線も確認できる。



新大橋北詰より下流方向左岸沿いを望む



新大橋付近左岸より下流方向を望む



新大橋より左岸側下流方向を望む



新大橋より下流方向右岸側を望む

流軸景の特徴的事項【中・下流部】

<4. くにびき大橋を視点場とした場合>

- ・上流側と異なり、左岸側は河川に隣接した高層ビルなどがなく、水田や緑地などが中心の自然豊かで開放的な眺めとなる。
- ・右岸側には松江港や商業施設、左岸側背後には和久羅山からのびる稜線も確認できる。



くにびき大橋より下流方向を望む

<5. 朝酌川合流点付近を視点場とした場合>

- ・左岸に丘陵が迫るとともに、流路が蛇行しており、中流部のような開放感はない。
- ・河道内の右岸より塩楯島が位置し、景観にアクセントを与えている。
- ・川沿いに宅地が分布し、護岸と水面との差高は小さい。左岸側の集落は建物の高さ、屋根瓦の色彩にばらつきが少ない。



朝酌川合流点付近より下流方向を望む

<6. 中海大橋を視点場とした場合>

- ・視点場として高さがあり、俯瞰景に近い雄大な眺めとなる。
- ・左岸側一体が水田地帯となっており、開放的な眺めとなっている。
- ・左岸側には、ヨシなどの湿生植生もみられ自然の豊かさを感じさせる。
- ・右岸側は管理用通路を挟んだすぐの川沿いに比較的大きな集落があり、生活感を感じさせる眺めとなっている。



中海大橋より上流方向を望む

対岸景の特徴的事項【上流部 左岸側】

<7. 宍道湖大橋～大橋 左岸>

- ・老舗の旅館やホテル、また、(大橋からは)松江城も確認でき、松江市の歴史を感じさせる眺めとなっている。
- ・一方で、商業用ビルや看板なども見受けられる。
- ・また、護岸の見えの高さも大きく、石積みとコンクリートの材質の違いがやや目立っている。



大橋南詰付近より対岸を望む

<8. 大橋～新大橋 左岸>

- ・老舗旅館、見えの小さい護岸、ヤナギ並木、おだやかな水の流れなどが特徴となっている。
- ・周辺のビルは極端な高さのものはなく、同程度の高さで並んでいる。



新大橋南詰付近より対岸を望む



大橋～新大橋中間地点付近より対岸を望む

対岸景の特徴的事項【上流部 左岸側】

<9. 新大橋～くにびき大橋 左岸>

- ・マンション、ガスタンク（撤去中）、近代的建造物（公共施設）などが混在した都市化を感じさせる眺めとなっている。
- ・一方で、新大橋付近には宅地、公園などが存在し、松江市民の生活・文化を感じさせる。
- ・護岸は、石積み、コンクリート、時間の経過した蛇籠など、地点ごとに違いがみられる。



くにびき大橋より上流側 200m付近より対岸を望む



新大橋南詰付近より対岸を望む

対岸景の特徴的事項【中流部 左岸側】

<10. くにびき大橋～朝酌川合流点 左岸>

- ・中の島、中州、松崎島が位置し、ヨシなどが繁茂しており、自然の豊かさを感じさせる。
- ・くにびき大橋の背後には、郊外型の比較的新しい建造物が立ち並び、さらに背後には島根半島の山々からのびる曲線的な稜線が確認できる。



くにびき大橋右岸側たもと船着場付近より対岸を望む



宍道湖遊覧船第一のり場付近（くにびき大橋よりの中流部右岸）より左岸側を望む

対岸景の特徴的事項【中流部 左岸側】

<10. くにびき大橋～朝酌川合流点 左岸 つづき>

- ・朝酌川合流点付近には、マツ林やスギ林に囲まれた集落がみられる。この辺りでは、上流ほど川幅が広くないため、対岸の中の島の護岸の見えの高さがやや大きく感じられる。



朝酌川合流点上流側 300m 付近より対岸を望む

対岸景の特徴的事項【下流部 左岸側】

<11. 朝酌川合流点～塩楯島付近 左岸>

- ・多賀神社と周辺のマツ、スギ林、周辺に広がる民家と差高のない水面などが特徴となっている。
- ・また、中の島を挟んで剣先、朝酌の両河川があった中流部と比較し、対岸が近距離に感じられる。
- ・「出雲国風土記」にも記載されている「矢田の渡し」が位置し、人と川との深いつながりを示すとともに、船着場や船が眺めにアクセントをあたえている。



矢田の渡し付近より対岸を望む



対岸より多賀神社鎮守の森を望む



矢田の渡しを望む

対岸景の特徴的事項【下流部 左岸側】

<12. 塩楯島付近～中海大橋 左岸>

- ・河川内に塩楯島（島内には手間天神社あり）が位置し、景観上のアクセントとなっている。
- ・塩楯島付近の左岸沿いの民家、差高のない水面、背後のマツ林などが特徴となっている。
- ・塩楯島より下流はヨシ原となっており、自然の豊かさを感じさせる。



塩楯島付近より対岸を望む



塩楯島付近より対岸を望む



中海大橋上流側 400m 付近より対岸を望む

対岸景の特徴的事項【上流部 右岸側】

<13. 宍道湖大橋～大橋 右岸>

- ・低層ならびに山陰合同銀行本店ビルに代表される高層のビルが混在している。
- ・護岸に関しては、ほとんどがコンクリートで整備されている。



宍道湖大橋より右岸側を望む



宍道湖大橋～大橋中間地点付近より対岸を望む

<14. 大橋～新大橋 右岸>

- ・小規模の商業施設が密集し、企業の看板なども見られる。
- ・一方、売布神社境内の緑がアクセントとなっている。
- ・新大橋付近は、川沿いが公園として整備され、護岸の見え、水面との差高が非常に小さい。



新大橋北詰付近より対岸を望む



大橋北詰付近より対岸を望む



大橋より対岸を望む

対岸景の特徴的事項【上流部 右岸側】

<15. 新大橋～くにびき大橋 右岸>

- ・ 背後に松江駅が位置し、(利便性の高さなどから)高層、低層の商業ビルが混在する。
- ・ 新大橋付近は、川沿いが公園として整備され、護岸の見え、水面との差高が非常に小さい。



くにびき大橋付近より対岸を望む



新大橋北詰付近より対岸を望む



新大橋～くにびき大橋中間地点付近より対岸を望む

対岸景の特徴的事項【中流部 右岸側】

<16. くにびき大橋～朝酌川合流点付近 右岸>

- ・ くにびき大橋付近では、川沿いやその背後に、大小の商業施設やマンションなどが混在する。



くにびき大橋下流 300m 付近 (大橋川を航行する船上) より右岸側を望む

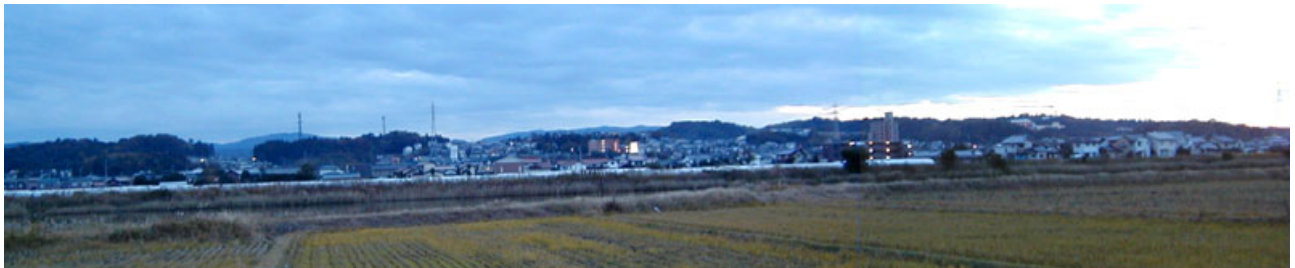
対岸景の特徴的事項【中流部 右岸側】

<16. くにびき大橋～朝酌川合流点 右岸 つづき>

- ・下流に近い地点では川沿いの宅地とともに農業用のビニールハウスが確認できるなど生活感を感じさせる。
- ・背後には星上山からのびている稜線も確認できる。



朝酌川合流点上流側 300m 付近（大橋川を航行する船上）より右岸側を望む



朝酌川合流点上流側 1km 付近より右岸側を望む

対岸景の特徴的事項【下流部 右岸側】

<17. 朝酌川合流点～塩橋島付近 右岸>

- ・宅地や沿川道路が分布する。その背後にはマツ林や丘陵がみられ、一部の丘陵地部には宅地（住宅団地）も見受けられる。川沿いの宅地には、比較的新しいものも見受けられる。
- ・「矢田の渡し」が位置する。



朝酌川合流点付近（大橋川を航行する船上）より右岸側を望む



矢田の渡し付近より対岸を望む



楯島上流 150m 付近より対岸を望む

対岸景の特徴的事項【下流部 右岸側】

<18. 塩楯島付近～中海大橋 右岸>

- ・中海大橋付近の川沿いには、昔ながらの集落があり、屋根の高さなどにも統一感がある。
- ・護岸に関しては、石積み（空石）やコンクリートなど場所ごとに違いがみられる。一方で、見えの高さは小さく、水面の近さを感じさせる。
- ・塩楯島付近より下流の右岸側は工場や宅地、道路の高架などがある。塩楯島は、左岸側と同様、景観のアクセントとなっている。
- ・背後には星上山からのびている稜線が確認できる。



中海大橋上流側 600m 付近より対岸を望む



塩楯島付近より対岸を望む



塩楯島下流 250m 付近より対岸を望む



塩楯島付近より対岸を望む

俯瞰景の特徴的事項

<19. 宍道湖大橋～くにびき大橋>

- ・沿川の橋南、橋北での差異はほとんどなく、全体を通して低層と高層の建造物の混在が確認できる。
- ・大橋から新大橋にかけての右岸側では、昔ながらの松江の商業地の町並みが見られる。
- ・大橋川は、市の中心部を流れ、生活空間に近く、水面への視界も良い川であることを感じさせる。



山陰合同銀行本店ビルより下流方向を望む

<20. くにびき大橋～朝酌川合流点>

- ・くにびき大橋付近から下流部にかけて広がる中の島や中州の水田は、自然の豊かさを感じさせる。
- ・左岸側背後には、嵩山、和久羅山からのびる稜線も確認できる。
- ・中の島や中州の緑がアクセントとなっており、大橋川独自の個性的な眺めを作り出している。



山陰合同銀行本店ビルより下流方向を望む

船上景の特徴的事項【上流部】

<21. 宍道湖大橋～大橋>

- ・水の流れに沿って、下流方向には松江大橋が架かり、その特徴である御影石の欄干、擬宝珠がはっきりと確認でき、松江市の歴史性を感じさせる。
- ・大部分の範囲でコンクリートの護岸が間近に見える。



宍道湖大橋～大橋中間地点より右岸側を望む



宍道湖大橋～大橋中間地点より下流方向を望む

<22. 大橋～新大橋>

- ・左岸側は、老舗旅館、見えの小さい護岸、ヤナギ並木、おだやかな水の流れなどが特徴となっている。
- ・特に石積み護岸の表面形状もはっきりと確認できる。



新大橋付近より左岸側を望む

船上景の特徴的事項【上流部】

<23. 新大橋～くにびき大橋>

- ・ 右岸側新大橋付近は、川沿いが公園として整備されている。
- ・ 特に宍道湖遊覧船の乗場付近は、護岸の見えの高さも小さいことから、水との近さを感じさせる。
- ・ 左岸側の新大橋付近は、川に面した住宅が建ち並び、人々の生活の営みを身近に感じる景観となっている。



くにびき大橋付近より右岸側を望む



くにびき大橋付近より左岸側を望む



くにびき大橋付近より中の島を望む

船上景の特徴的事項【中流部】

<24. くにびき大橋～朝酌川合流点>

- ・左岸側には、中の島の水田や緑地とともにその周辺で生息する水鳥などの生物も確認でき、大橋川の豊かな自然を間近に見ることができる。
- ・下流側に近づいていくと朝酌川、剣先川が大橋川と合流し、開放的な空間の変化を感じさせる。



くにびき橋下流 500m 付近より左岸側を望む



朝酌川合流点付近より左岸側（朝酌川方向）を望む

船上景の特徴的事項【下流部】

<25. 朝酌川合流点～塩楯島付近>

- ・川の中心部に塩楯島が位置し、個性的な眺めとなっている。
- ・また、塩楯島の周辺では水鳥も多く確認され、大橋川の豊かな自然を間近に見ることができる。



<26. 塩楯島付近～中海大橋>

- ・最下流には中海大橋が架かっており、その大きさを感ぜさせる。
- ・また、左岸側の湿生植生やその周辺で生息する水鳥など、大橋川の豊かな自然を間近に見ることができる。



中海大橋上流 500m 付近より下流方向を望む